



第百六十二號

(第十四卷)

昭和九年十月

編輯室より

ます々々どうも「天文」といふものが一般社會相へ没入して行く。今年は今までに既に四つばかりも來年の日記の編輯者から1935年度の天文現象に関する記事の相談を受けた。それで、實は1935年度の天文曆は既に1933年の秋の頃から吾々の手に入り、詳細なことが分つてゐるのであるが、今までの習慣により本誌では毎年一月號に將來一ケ年間の天文現象の豫報を附録として發表することにしてゐたのだが、之れでは何だか少し形式に囚はれ過ぎてゐるやうであるし、むしろ一般の讀者の中には、「一月號」を待たないで、一刻も早く此うした豫報が知りたい希望の人も多いのだらうと思ふから、今後は、天文曆の手に入り次第之れを換算發表して、讀者の便宜を圖りたいと思ひ、早速、今月號に1935年度のもの載せることとした。

今年の春以來、花山天文臺では一般の參觀人を受け入れることにしたので、夏も冬も夜も晝も賑つてゐる。又、われらの倉敷天文臺も、時勢をリードするため、内容外觀をウンと發展せしめることにした。會員たちは毎年一度ぐらゐるは必ず倉敷を訪ねて貰ひたい。山本臺長も今後は毎月一度ぐらゐる倉敷で臺員を實地指導し、又、研究觀測を行はれる筈である。

春以來、本誌の觀測部欄は可なり著しい變化を見せてゐることに御氣付きの人が多かるうと思ふ。そして、既に公告した通り、今まで觀測欄にシカツメラしく頑張つてゐた數表や報告は多く花山ブレンの方へ移された。此の花山ブレンは今日約400部づつ全世界の天文臺へ送られてゐるから、マジメな、價値の高い研究結果は最も有効に學界へ乗り出しつゝある。讀者諸氏も必ず此の新しい形式の國際天文雜誌を常に讀んで貰ひたい。親切な日本語が付いてゐるから、誰も皆、日刊新聞と同様に讀める。

編輯部では目下1935年度の年鑑と、日記とを作製中。(7)